

おい図書館

No.231

発行
代表
青木 和子
松本市牧の原1-10-4
104-416
TEL 0477-311-0886

内の本がわかる図書館。
行くヒワクワクするよう図書館がいいな。

みんながキレイに借りマキレイに返す図書館。

・(いつも金町の図書館を利用中) DVD、CD、紙芝居、大型絵本、利用時間：松戸はすべてが残念。

・漫画が借りられたい。

・電有駅前にある「ミツカレ」(子どものための小さな図書館)のよう居心地の良い、地域の居場所になるような図書館。

・図書館に座れる場所を増やレマ欲しい。

・駅ナカ出張図書館(生活動線の中で本に出会える)、企業への出張図書館(職場で本に出会える)、子どもや一人の研究の手助けや発信をしてくれる図書館。

これ以外にも、松戸市の図書館への熱い想いや「おい図書館」

ブースに来てくばさつた皆さんからは「あつたらいいな、そんな図書館」のアンケートに以下のようなお声をいただきました。(会場では付箋でのご意見が多く、QRコードはオンラインチャットより数件いただきました。)

10/27 アンケート

・気に入つたら買えたり、カフェ併設してたり、読み聞かせが平日もあつたり、お願いしたら読んでくれたり、知育おもちゃもあつたり、大人用の雑誌もあつたり、ゴロゴロしながら読めたりする図書館。
・カフェがある図書館。
・広くて明るくて賑やかなスペース、どこにどんな本があるのか館

坂川

ながるるブックマーケット



報告 富田文子

10月27日(日)、戸定邸をメイン会場にした「科学と芸術の丘2024」のカタリスト(注一)イベント「坂川ながるるブックマーケット」に「おい図書館」として出店しました。

当日のブースが松戸神社方面から来る方々と出会えるベストポジションだったこともあり、たくさんの方の立ち止まり、いろいろなお話をすることができました。

の会報合本「15年のあゆみ」を見て、「すごい！こんな活動があるのは知らなかったです」「松戸市は書籍の取り寄せが出来るので、主人が仕事に良く利用しています」「昨日の戸定師のパネル展示に行ッて来ました」「図書館についていろいろ思うところがあるので繋がりたいたい」などなどの声も。

やはり、イベントに出店して市民の生の声を聴けて、俄然やる気になりました。

当日は、図書館について同じように市民で活動する箱の団体の方が来てくださったり、他市の図書館活動についていろいろ情報を伺える参考になりました。一緒に出店してくださったHさんの書店関係のフナガリもありが良かったです。

また皆さんとも面白い事ごとが出来たらしいな〜と思います。(ブースで愉しんでいた私は、全部の店頭にご挨拶できなかったまま終わりました。

した。トホホ…)

「坂川なぐるるブックマーケット」は16時まででしたが、私は15時から「おいしい図書館」定例会へ移動しました。

定例会ではDVD上映の準備をしつつ、11月17日(日)に子ども読書推進センターで開催予定の「読書バリアフリー」展示会について情報共有や、今回のブックマーケットでの反応、そして今後計画している新しい合本制作や販売、会報誌の発行や定例会の開催など、今後決めていく必要がある物事への共有をしたりしました。

「図書館へ行こう！」のDVDの中から「2.知りたいの味方」「3.わが社のデータベース」を視聴しました。視聴し終わったところで常世田先生が合流。「3.わが社のデータベース」は約4年前の浦安市立中央図書館の様子で、「これについてどう

思うか？」と問われました。会場に来ていた会員の方は、実際に以前は国会図書館で特許申請について調べていたこともあるというお話をされました。

また、前回の定例会でも話題にだった近隣市での「図書館協議会」の有無についてや、「図書館協議会」はあった方が良いのか？など、いろいろな視点での話題に広がりました。お話を伺いながら、まずは私たちが市民活動では市民の声を集めたり「図書館は情報の蛇口」ということを啓発していく事がさらに大切かも？と思ったり。

この日の定例会は参加者は少ないだろう〜と思っていました。が、程よい人数で、皆さんでいろいろ話せる良い定例会になったと思います。

代表の青木さんが11月発行予定の「としよかん」17号に寄稿された「千葉県内図書館関係市民団体

連絡会の活動について(注3、本号4頁に掲載)より有しました。これを読むと「おい図書館」と千葉県内の団体との交流の始まりや最近の活動の様子が分かります。

今回のイベント用にと、せっかく「おい図書館」ののぼり旗やリフレットを購入したので、またオンラインであれば活動の紹介やアンケートなどを実施したいと思えました。

(注1)カタリスト：植物の受粉を手助けする蜂や蝶のように、変化のきっかけをつくる「触媒」となるイベント、人、ものをカタリストと呼んでいます。

(注2)読書バリアフリー：障害の有無にかかわらず、読書を通してすべての人が等しく文字・

活字文化の恵沢を享受することのできる社会を実現するための法律が、2016年6月に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に

関する法律」(読書バリアフリー法)として成立、施行されました。

様々な障害のある人が利用しやすい方法で本の内容にアクセスできるようにすることを目指して活動しています。



坂川
ながるるブックマーケット
出店風景



松戸市立図書館では

2024年3月に大竹英貴館長が退任され、4月より根本真光館長が就任されました。

松戸市立図書館の更なる発展のために、そして新しい図書館建設のためにご尽力下さいますことを大いに期待しております。

(注
う)

千葉県図書館関係市民団体連絡会 の活動について

松戸市 お～い図書館
青木 和子

千葉県図書館関係市民団体連絡会(以下、連絡会)は紆余曲折を経て発足し、現在に至っています。

1992年、松戸市立図書館企画の図書館見学バスツアーで訪れた浦安市立中央図書館から強い衝撃を受けたことが、1993年1月の「お～い図書館」発会につながりました。会員10余名の殆どは図書館に関して素人でしたので、近隣の図書館見学、伝手を頼っての講演会開催などを行っていました(『としょかん』165号(2023.5)を参照)。

そうしたところ、1997年、隣接する「柏・図書館友の会」から呼びかけがあり、「東葛地区・図書館を考える市民交流会」が開催されました。6市1町からの活動報告や意見交換が行われ、その後、参加市町の輪番制で年1回の交流会を開催しました。しかし、それぞれの事情から活動休止を余儀なくされる団体が相次いだため、数年で交流会も休止せざるを得なくなりました。

そのような中で、2004年5月15日発行の『としょかん』96号に「図書館友の会全国連絡会」(以下、図友連)設立の呼びかけ文(3月23日付)が掲載されました。私たちも躊躇することなく趣旨に賛同。この年の4月から図友連が始動しました。

千葉県内でも、仲間と手をつなぐことの大切さを感じていた「千葉市の図書館を考える会」(現「としょかんふれんず千葉市」)の方々と相談会を持ちました。当時の浦安市立中央図書館長であり、日本図書館協合理事を務めておられた常世田良氏にご相談

して顧問を引き受けていただき、連絡会発足にこぎつけることができました。

2006年1月、県内7団体が参加し、千葉市小仲台公民館で第1回連絡会を開催しました。7団体とはいえ、それぞれ異なる問題を抱えている中でどこに接点を見つけて交流していくのか等の難しさはあるものの、情報を共有し、愚痴をこぼし合い、お互いに元気を貰い合えるゆるやかな会にしようと話し合いました。

代表は置かず、年2回の開催。輪番制で、会場等は担当市に一任し、参加費は1団体500円。内容は担当市の図書館見学、常世田氏やその他の講師の講演、各会からの活動報告、意見交換を行っています。その後も常世田氏は可能な限り連絡会に出席してくださり、広い視野からの様々なお話や貴重なアドバイスをいただくことができました。この連絡会を続けられたことの何よりの原動力と感謝しております。

コロナ禍の3年間は開催を見送り、2023年1月に第28回連絡会を開催。以後は年1回開催と決定。現在は市川図書館友の会、印西子どもの文化連絡会、浦安市図書館友の会、お～い図書館(松戸市)、かけはしの会(いちほら文庫・おはなし会連絡協議会)、佐倉地域文庫連絡会、図書館友の会きみつ、としょかんふれんず千葉市の8団体です。

2016年に第21回連絡会として長野県塩尻市市民交流センター「えんぱーく」を総勢23名で訪れたことは楽しい思い出となっています。(おおき かずこ)